

試験研究成果普及情報

部門	経営	対象	普及、行政
課題名：農協における農産物生産履歴管理体制モデル			
[要約] 農協における農産物生産履歴管理体制モデルとしては、1)生産者相互の記帳点検を通じ記帳能力向上を図るタイプ（集団志向モデル）、2)農協の指導・監査機能と生産者の記帳責任の分担を図るタイプ（機能分担モデル）のいずれかが望ましい。			
キーワード [※] 生産履歴、農協、農薬、肥料、トレーサビリティ			
実施機関名 主 査 農業総合研究センター企画調整部経営調査室 協力機関 全農千葉県本部、農業改良課、安全農業推進課			
実施期間 2003年度～2005年度			

[目的及び背景]

農産物の生産履歴の記録・管理が重要な問題となる中で、農協系統産地の特性に配慮した成立可能な生産履歴管理体制の方向性を明らかにする。

[成果内容]

生産履歴管理に取り組む農業法人、農協等の調査から以下のことが明らかになった。

- 1 農協生産者部会は、先進的農業法人と以下の点で性格の違いがあるため、先進的法人の履歴管理システムをそのまま適用することは現実的ではない。
 - (1) 多くの農協生産者部会は、卸売市場流通への依存度が高いので、履歴記帳等に関する契約観念が発達しにくい（法人等では、特定の取引先との契約条件に対応した生産体系・資材の採用、履歴記帳・報告義務等をセットにした生産者の選別が可能だが、農協の場合は組合員である生産者の差別的な取り扱いが困難なため）。
 - (2) 農協では、組合員の属性、能力に幅がある場合が多く（専業・兼業、高齢者、特定農産物の経営上の重要度等）履歴記帳・報告義務の厳格な運用は困難である。
- 2 多くの農協生産者部会が依存する卸売市場流通では、卸・仲卸業者における流通履歴管理のための組織的、技術的インフラ整備がトレーサビリティ・システム（農水省ガイドラインの定義による）の成立に必要なだが、短期的には実現困難である。このため、農協生産者部会としては、産地の信頼性確保を主眼とした生産履歴管理体制の確立を図ることが当面の最重要課題となる。
- 3 農協生産者部会における生産履歴管理の先進的取り組みを「指導・監査運用主体」及び「記帳能力向上対応」の2つの軸で検討し、現実的で望ましい農産物生産履歴管理体制モデルとして、以下の2つのタイプを提示した（表）。
 - ア「集団志向モデル」（生産者相互の記帳点検を通じ記帳能力向上を図るタイプ）
 - イ「機能分担モデル」（農協の指導監査機能と生産者の記帳責任の分担を図るタイプ）

[留意事項]

- 1 本モデルは、野菜産地の検討によるが、水稲作、果樹作についても本質的相違はない。
- 2 モデル選択は産地の実情によるが、「機能分担モデル」の方が相対的に生産者の契約観念を要するため運用難易度が高く、先進的法人のシステムに近いと見られる。
- 3 いわゆるITシステムの導入は二義的な問題だが、農協にチェック機能が集約される「機能分担モデル」の方がITには適合性が高いと考えられる。

[普及対象地域]

農協生産者部会、任意出荷組織等

[行政上の措置]

[普及状況]

- ・『農産物トレーサビリティシステム導入に向けて（手引書）』（2006年3月：千葉県農産物トレーサビリティ実験推進協議会）に成果内容を執筆し関係機関に配布。
- ・「生産履歴記帳推進研修会」（2006年10月：安全農業推進課主催）で発表。

表 現実的かつ望ましい農産物生産履歴管理体制モデル

	集団志向モデル	機能分担モデル
指導・監査運用 主体	<p><生産者相互の確認体制を志向></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産者部会支部が履歴推進の基礎単位 ○支部単位で記帳状況等の確認を定期的に実施 ○農協職員と一定の講習を受けた生産者が記帳確認、指導に当たる。 	<p><指導・監査機能は農協></p> <ul style="list-style-type: none"> ○農協は個別に提出された記録を点検、記入ミスがあった生産者には個別に連絡、指導（修正は生産者自身で行う） ○記帳作業、記録提出は、個別生産者の責任であることを明確化
記帳能力向上対応	<p><集団的な能力底上げ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○支部単位の記帳説明会、研修会、記帳確認会等の適時実施による集団的能力向上推進 	<p><個別生産者の自己責任重視></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特に記帳に問題がある場合は農協が、生産者に個別指導 ○普遍的な記入ミスの事例は、全生産者参加の指導会で注意喚起
問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ○記帳確認、指導に当たる生産者の育成に要する時間、手間、経費 ○支部間格差発生のおそれがある。 ○生産者の参画が形骸化すると「なれあい」におちいるおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記帳が苦手な生産者に疎外感が発生するおそれがある。 ○農協の特定スタッフに負担がかかるおそれがある。

[発表及び関連文献]

- ・栗原大二「農協における農産物生産履歴管理体制に関する考察」（日本フードシステム学会研究大会個別報告；平成18年6月18日）

[その他]